

障害児療育における同窓の連帯をめぐって*

村上英治 中西由里¹⁾ 森崎康宣²⁾
後藤秀爾³⁾ 加藤礼子⁴⁾ 水野博文⁵⁾

昭和46年以来、名古屋大学教育学部臨床心理相談室において、在宅の心身障害児を対象に、週1回、食事介助をはさんで3時間にわたる、母子通所形態の集団療育（通称MRグループ）をつづけてきて14年目、これまでこの療育に関与した療育者は60名を越え、対象児も実数46名に達した。

諸般の施策がすすむにつれて、来所する対象児の障害の度合は、重度重症の一途を辿ってはいるが、それでもなお医療的対処をこえて、これら障害児の心理面での発達援助に重点をおきながら、さらにその子にかかわる母親及び療育者の成長をあとづけることが私たちのこれまでの課題であった。

最近はさらに、健常児きょうだい、父親の参加をも促しつつ、障害児を包みこんでの家族全体の変革、そしてまたそうした家族同志の横の交流のあり方に重点を置いて、実践活動をすすめているが、こうした年度ごとの考察もさることながら、ここで療育を受け、それを巣立っていった障害児の予後を追い、その後の成長発達の過程をあとづけることは、ここでの集団療育の意義を改めて問い合わせことになるという意味でも、重要な視点とすべきように思われる。

昭和56年11月15日には、療育開始10年をふり返る意味での同窓の「集い」を、親の会福祉会館でもち、昨昭和58年11月3日、トヨタ財団の研究助成を得て、名古屋大

学教育学部附属学校体育館において、療育当初からの対象者の家族、療育者、さらに今回の企画に参同するボランティアに呼びかけて運動会を企画したのも、この意味においてであり、その予後を確かめるとともに、相互のさらなる交流の和を意図したものである。

これらを終えて、それぞれ療育者、ボランティア、また親たち（父母）に、過去から現時点に到るまでを回想してもらいながら、それぞれの体験をアンケートで求めた。ここでは以下、その概要を報告するにとどめるが、今後これらの資料をもとに、具体的な実践をすすめていく中で、「同窓の連帯」の意義をより深く検討していくたいと考える。

I 調査の手続き

1 調査対象

私どものこれまでの療育活動に参加してきた子どもの父親・母親と療育者全員、及び、運動会の企画・運営にかかわったボランティア全員を、調査の対象とした。先の報告（後藤・村上ら、1981）の段階で10年間の対象児並びに療育者の名簿はすでに作成済みであったので、その後昭和57年以降新たに療育活動に加わった家族・療育者をも含めて新たな名簿を作り、それにより質問紙を発送した。対象の数としては、46家族（全数48家族の内2名は宛先不明のため除く。またその内父親の死亡した家族が一家族あった）、療育者59名（全数61名の内宛先不明の者1名と質問紙作成者1名を除く）、ボランティア15名であった。

2 調査内容

具体的なアンケートの内容は〈付表〉に示すとおりであるが、両親を対象にしての質問紙は各家族とも父親用、母親用の2種を送付した。多肢選択形式を多くして、質問内容を汲み取りやすくする配慮をし、また、自由記述

* 本研究は、トヨタ財団昭和58年度研究助成金を得て行なわれた。また、本論文の要旨は、東海心理学会第33回大会において発表された。

1) 名古屋大学大学院教育学研究科研究生

2) 名古屋大学大学院教育学研究科博士課程（前期）

3) 愛知学泉女子短期大学

4) 名古屋大学臨床心理相談室

5) 名東ワークス

障害児療育における同窓の連帯をめぐって

のスペースも多く取るようにした点も1981年の報告におけると同様である。

療育者に対するアンケートの内容もそれに次いで示されている。

3 回答状況

家族及び療育者、さらにボランティアに対する回収率は、表1に示すとおりで、かなり高率であり、さらに寄せられた回答は、総じて熱心なものが多く、自由記述に関しても多様な意見が述べられていた。ただ、両親を対象とする先回の調査では、主に、母親を中心となって記述してもらったが、今回は、父親用、母親用双方の回答を求めたことからさまざまな父親像をアンケートから読みとることができた。すなわち、所定の枠では書ききれないほど自由記述欄に記載している父親から、質問紙にはほとんど答えずにただフェイス・シートのみを送付し

表1 質問紙の回収率

	回 収 率
父 親	71.1% (32/45*)
母 親	80.4% (37/46) [内、父親が回答しなかった者5名]
療 育 者	67.8% (40/59)
ボランティア	86.7% (13/15)

* 46家族中父親の死亡した1名を除いてある。

てきた父親、あるいは母親の回答のみで父親は回答を寄せなかった者といったように、それぞれ家族の様相は多彩であった。しかし、こうした回答状況そのものの中に、また、私どもの療育活動に対する数多くの示唆が含まれていたことも事実である。

II 両親からの結果

1 「集い」への実際の参加状況

先にも述べたように、私どもは、MRグループの療育活動の10年の歩みを振り返って、昭和56年11月に親の会会館において同窓会を開催してきた（以下「同窓会」と略す）。そして、その2年後にあたる昭和58年11月に名大教育学部附属学校体育館において、同窓会をかねた運動会（以下「運動会」と略す）を開催した。

まず、この2つの同窓の「集い」への実際の参加状況について記したのが表2である。これらは、このアンケートとは別に、主催者である私どもが把握した実際の数である。質問紙の回収率については先に示したとおりであり、表3以下のまとめは、回収したアンケートにもとづいている。

「集い」への参加状況をみると、「同窓会」へは76% (31/41)、「運動会」へは61% (28/46) の家族が出席している。参加の形態は、出席者の中でみれば、2回とも、母子のみ、もしくは母子ときょうだいという組み合わせが最も多い（各々59% <24/41>, 35% <16/46>）。父親の参加についてみると、「同窓会」ではわずか4家

表2 同窓の「集い」への参加状況

年度 参 加 状 況 出 欠	S 56 年 度 以 前			S 57 年 度 以 降	総計		
	2回とも	1 回 のみ					
		同窓会	運動会				
出席	父 母 と も	4		1	4		
	母 の み	e 14	f 10	g 1	h 1		
	母 は 2 回 内 1 回 は 父 も	3					
	小 計	a 21	b 10	c 2	d 5		
父 母 と も 欠 席	8						
總 計	29	10	2	41	5 46		

$$\begin{cases}
 \begin{aligned}
 &\text{「同窓会」への参加者} & a + b = 31 \\
 &\text{「運動会」への参加者} & a + b + c = 28 \\
 &\text{「同窓会」へ母のみの参加者} & e + f = 24 \\
 &\text{「運動会」へ母のみの参加者} & e + g + h = 16
 \end{aligned}
 \end{cases}$$

族（10%<4/41>）であるが、運動会では9家族（20%<9/46>）と増えているのが特徴である。これは、熱田での「同窓会」以降（すなわち昭和57年度以降）、私どもの療育グループに新たに参加した5家族中4家族が両親揃って参加したため、数が倍増したといえる。これらの背景には、父親の療育活動への参加の目立つ昭和56年度以降において、対象児の障害の重度化や、ニュー・ファミリーと呼ばれる世代とそれ以前の世代との相違などといった点とも関連があると考えられる。このことに関連して、昭和57年度から療育に参加しているある母親は次のように記している。

「障害が重いと、どうしても主人の力を借りなければならないことが多い。いつも家族一緒にいる考え方が多いのですが、（運動会に参加した）他の方々で、お父さんの出席が少ないのでないかと思われ、少しあり難く思いました」（母親A）

2 「集い」について的一般的な意識

以下、回答された資料にもとづいてあるが、同窓の「集い」についての意味やあり方、今後の期待などについてまとめたものが表3から表9に示してある。それぞれ、参加（1回以上同窓の「集い」に参加した人）と不参加（2回とも欠席した人）とに分け、さらに、父親については、父母ともに参加；家族は参加したが父親は不参加；父母ともに不参加；の3群に、母親についても、父母ともに参加；父親は不参加だが家族（母親）は参加；

父母ともに不参加；の3群に分けて比較した。

表3は「集い」の意味についてたずねたものである。どの群をみても、「子どものためによい」「母親のためによい」との答えが大半を占めている。これは、私どもの療育グループが母子通所を原則としている以上当然のことといえる。主役の母子以外の家族への視点の拡がりについて聞くことを意図した「きょうだいのため」「父親のため」「家族のまとまりのため」という回答に注目すると、父母ともに（つまり一家揃って）同窓の「集い」に参加した父親は、約半数近く（4~5/10）がそこに意味を見出しているのに対し、不参加の父親は、「きょうだいのため」と答えた者が22名中2名、「父親のため」が22名中2名、「家族のまとまりのため」が22名中5名と、そのような視点が十分みとめられないことがわかる。

ただ、この結果からだけでは、そのような視点をすでに持っている父親が「集い」に多く参加したのか、それとも、参加することによりそのような視点が見出されたのかを断定することはできない。しかし、治療や療育の対象を通所してくる母子のみに限定するのではなく、近年、私どもが提唱している「家族全体を」という視点で、きょうだい、父親をも療育活動に巻き込むことを考える上で、こうした「集い」の試みが刺激となる積極的效果についても、今後検討すべき課題であると考えている。

昔の仲間に再会する機会を持つことについての意識をたずねたのが表4である。参加者、不参加者ともに、こうした試みを否定的に考えている人は1人もいない。大

表3 同窓の「集い」の意味について

回答	父 親 (N=32)		母 親 (N=37)			不参加 (N=5)
	参 加 *	不 参 加 **	参 加	不参加		
	父母ともに 参加 (N=10)	父のみ不参 加 (N=18)	父母ともに 不参加 *** (N=4)	父母ともに 参加 (N=10)	父は不参加 (N=22)	
イ. 子どものためによい	7	14	3	7	13	3
ロ. 母親のためによい	6	7	2	7	13	2
ハ. きょうだいのためによい	4	1	1	5	5	2
ニ. 父親のためによい	4	1	1	3	2	2
ホ. 家族のまとまりのためによい	5	2	3	4	1	3
ヘ. 何の意味もない						1
ト. わからない、何とも言えない		1			1	1
チ. その他の			1			
無 回 答		5	1			

（重複回答） * 1回以上参加した父親

** 2回とも欠席した父親 （以下の表も同様）

障害児療育における同窓の連帯をめぐって

部分の人が、「集い」を支持しているとみてよい。引き続いて、これまでに、両親主導による自然発生的な「集い（同窓会のようなもの）」開催の動きについて聞いたものが表5である。これをみると、そのような動きはまったくと言っていいほどみられない。こうした企画については、まだまだ、私ども療育者がイニシアチブをとり、組織化していかねばならない使命を担っている段階であると考えられる。

ただ、私どもが、これまで10数年にわたる療育活動のうち、特に療育合宿（後藤・村上ら、1977）を積極的に取り入れたときに、この活動に加わっていた昭和51年度のグループ・メンバーの母親たちからは、次のような意

見がみられる。

「同期の人に呼びかけて集まっていることはある」（母親B）

「母親が（病気で）入院する前は時々、昔の仲間に会っていました」（母親C）

表6には、MRグループを通して新しい仲間と知り合うことについての意見がまとめてある。これについて、大多数の人が「あってもよい」「前向きに考えた方がよい」「大変大事なこと」と答えているが、ごく少数の意見ではあるが、「抵抗を感じる」「必要を感じない」との答えが、家族は参加したが自分は不参加という父親にみられることにも注意を払わねばならない。父親の療育へ

表4 昔の仲間と再会する機会をもつことについて

回答者 回答 参加状況	父 親 (N=32)		母 親 (N=37)			不参加 (N=5)
	参 加	不 参 加	参 加	父は不参加 (N=22)		
	父母ともに 参加 (N=10)	父のみ不参 加 (N=18)	父母ともに 不参加 (N=4)	父母ともに 参加 (N=10)		
イ. 大変必要なことと思う	5	7	1	8	11	1
ロ. できればあった方がよい	4	8	3	3	13	4
ハ. あってもかまわない	1	2			2	1
ニ. 必要を感じない						
ホ. その 他						
無 回 答		5	1			

表5 両親主導による同窓の「集い」の企画について

回答者 回答 参加状況	父 親 (N=32)		母 親 (N=37)			不参加 (N=5)
	参 加	不 参 加	参 加	父は不参加 (N=22)		
	父母ともに 参加 (N=10)	父のみ不参 加 (N=18)	父母ともに 不参加 (N=4)	父母ともに 参加 (N=10)		
イ. そういう動きについては 知らない	8	10	1	5	10	3
ロ. 雰囲気はあるが 盛り上がりがない		1			3	
ハ. まとめ役がいない		2		1	1	
ニ. つきあいがあるので 必要を感じない				1	1	
ホ. 昔の仲間にまで 手がまわらない					2	2
ヘ. 今も時々集っている						
ト. その 他	1	2	1	1	2	
無 回 答	1	7	2	2	3	

資料

表6 M.R. グループを通して新しい仲間と知り合うことについての意見

回答者 参加状況 回答	父 親 (N=32)		母 親 (N=37)		不参加 (N=5)	
	参 加	不 参 加	参 加	不参加		
	父母ともに 参 加 (N=10)	父のみ不参 加 (N=18)	父母ともに 不参加 (N=4)	父母ともに 参 加 (N=10)	父は不参加 (N=22)	
イ. 大変大事なこと	4	9	2	6	9	1
ロ. 少し前向きに考えた方がよい	5	2	2	2	11	2
ハ. あってもよい	2	4	1	2	4	2
ニ. 抵抗を感じる		1				
ホ. 必要を感じない		1				
ヘ. その他の		1				
無回答		4				

表7 今後の同窓の「集い」の開催について

回答者 参加状況 回答	父 親 (N=32)		母 親 (N=37)		不参加 (N=5)	
	参 加	不 参 加	参 加	不参加		
	父母ともに 参 加 (N=10)	父のみ不参 加 (N=18)	父母ともに 不参加 (N=4)	父母ともに 参 加 (N=10)	父は不参加 (N=22)	
イ. 数年に1回でも全員で集まって	5	3		5	9	3
ロ. 1年に1回は全員で集まって	6	10	2	7	9	1
ハ. 同期の人たちだけと	3			2	3	1
ニ. 同窓の「集い」よりも相談を	2	6		1	4	1
ホ. その他の		2	2		1	1
無回答		4				

表8 今後の出席について

回答者 参加状況 回答	父 親 (N=32)		母 親 (N=37)		不参加 (N=5)	
	参 加	不 参 加	参 加	不参加		
	父母ともに 参 加 (N=10)	父のみ不参 加 (N=18)	父母ともに 不参加 (N=4)	父母ともに 参 加 (N=10)	父は不参加 (N=22)	
イ. 積極的に参加したい	7	5	1	8	16	1
ロ. 消極的だが参加したい	3	9	1	2	6	2
ハ. 出席しない、出席したくない		3				
ニ. その他の		1	2			3

の参加を積極的に進めようと取り組んでいる私どものひとつつの壁、あるいは課題がここに示されているといえる。

今後の同窓の「集い」の開催について、及び、今後の出席についての回答を示したのが表7と表8である。今後のこのような「集い」の開催について、数年に1回以

上開催してほしいとの意見が、父親の8割(26/32)、母親の9割(34/37)からきかれている。これは私どもの士気を高揚させるような回答と考えてよい。ただ、家族は参加したが、自分は不参加であった父親の約3割(6/19)が、同窓の「集い」よりも相談を、と答えていることに

表9 家族揃って参加できる企画に対する意見

回答 参加状況	父 親 (N=32)		母 親 (N=37)			
	参 加	不 参 加	参 加	不参加		
	父母ともに 参加 (N=10)	父のみ不参 加 (N=18)	父母ともに 不参加 (N=4)	父母ともに 参加 (N=10)	父は不参加 (N=22)	
イ. 子どもの発達の刺激に必要	5	12	2	8	15	4
ロ. 子どもには無駄	1					
ハ. 母親の刺激に必要	8	6		6	10	3
ニ. 母親にとっては あってもなくてもよい						1
ホ. 父親の刺激に必要	4	4		5	4	1
ヘ. 父親には無関係			1	1	1	
ト. きょうだいが 楽しみにしている	1			3	1	1
チ. きょうだいには無関係	1	2			1	
リ. そ の 他	1	3		1	1	
無 回 答		5	1	1	1	

(重複回答)

私どもが配慮しなければならないところがある。お祭り騒ぎ的な華やかさのみではなく、より地道で恒常的な取り組みも必要との意向であろう。これらの要望に答えるべく、現在、私どもはひとつの試みとしてミニコミ紙を発刊し、この中で、こうした不満や期待に答えていきたいと考えている。

また、今後の参加については、父親の8割(26/32)、母親の大部分(35/37)が「参加したい」と答えている。私どもの、同窓の「集い」の開催という活動は、この意味で将来にわたっても支持されているといえよう。

家族揃って参加できる企画に対する意見を聞いたものが表9に示されている。「子どもの発達の刺激」「母親の刺激」「父親の刺激」との回答が上位を占めていることは一見して明らかである。

3 「集い」に実際に参加したものへの意識

「同窓会」「運動会」それぞれに実際に参加した人の参加への意識をまとめたものが表10である。母親では、「同窓会」「運動会」とも「昔の仲間との再会を楽しみに」とする答えが一番多い。以下「子どもの発達を喜んでもらいたい」「子どもへの刺激」「以前お世話になったことへのあいさつ」と続く。父親をみると、「同窓会」では人数が少ないので何とも言えないが、「運動会」では、「子どもへの刺激」「以前お世話になったことへのあいさつ」といった2つの回答が多い。母親にくらべ日常の

療育に参加していない父親にとっては、「再会を楽しみにするような仲間」自体がないのであろう。このあたりのことを自由記述の中から補ってみたい。

「父親自身、子どもを連れて名大へ行ったことがないのすべてが初めてですが、みんな大きくなつたことでしょう。だから、知らない人ばかりというのはあたり前です……何しろ初対面の方々ばかりなので、誰と話をするにも気疲れした。お母さんたちの方は知った人が居られたようでしたが………」(父親A)

「『旧交を暖める』という言葉が適切にあてはまる第1回卒業生の皆さんだろうと思います………」(母親D)

また、「集い」に参加したことの意義についてたずねたものが表11である。「同窓会」では、その名称のごとく、母親の回答をみると、「昔の仲間との旧交があたためられた」との答えが一番多い。それにくらべ、「運動会」になると、母親では、「子ども自身にとっての刺激」「昔の仲間との旧交」が同数となってくる。「同窓会」ではこれといって差のなかった父親の回答も、「運動会」では、「子ども自身にとっての刺激」(6/9)、「おかあさんの精神安定・安心のためによかったです」(6/9)との回答を半数以上の人人が支持している結果となっている。母親側の意識が、同窓会的な「旧交を暖める」という気持ちに傾きがちなのに対して、父親の方は、より広く、「自分の家族」という視点に立っていることがうかがえる。ただ、私どもが意図した、MRグループの同期の人との横のつながりのみではなく、年代を超えた縦のつな

資料

表10 両親の参加への意識

回答	父・母の別	同窓会		運動会	
		父 親 (N = 4)	母 親 (N = 22)	父 親 (N = 9)	母 親 (N = 24)
イ. 昔の仲間との再会を楽しみに		3	15	3	19
ロ. 子どもの発達を喜んでもらいたい			7	3	7
ハ. 悩みごとを相談したい					
ニ. 子どもへの刺激		2	7	7	10
ホ. 親の気持ちの張り		2	3	2	6
ヘ. 家族で外出する機会		2		6	5
ト. 先輩や後輩にどういう人がいるかという興味		2		3	3
チ. 障害児のことを判ってくれる人と知りあいたい		3		5	6
リ. 以前お世話になったことへのあいさつ		2	8	6	5
ヌ. 企画の内容がおもしろそうだったので				1	3
ル. 人(家族)に誘われて				1	
ヲ. お祭りさわぎは好きだから		2		2	4
ワ. その他の		2		1	1

(重複回答) それぞれの回答者は実際に参加した者のみに限られる。

表11 「集い」へ参加したことの意義

回答	父・母の別	同窓会		運動会	
		父 親 (N = 4)	母 親 (N = 22)	父 親 (N = 9)	母 親 (N = 24)
イ. 子ども自身にとって刺激になった		2	6	6	11
ロ. きょうだいが楽しめて障害児きょうだいへの認識がかわった		2	3	3	2
ハ. おかあさんの精神安定・安心のためによかったです		2	4	6	6
ニ. おとうさんの自覚をうながすためによかったです		3		3	
ホ. 家族のまとまりのためによかったです		2	2	6	3
ヘ. 昔の仲間と旧交があたためられた		2	12	2	11
ト. わかり合える仲間と、新しく知りあえた					
チ. よくわからないが、とにかくおもしろかったのでよかったです			1	3	4
リ. その他の			1	3	3

(重複回答) それぞれの回答者は実際に参加した者のみに限られる。

がりや拡がりを意味した「わかり合える仲間と新しく知り合えた」という回答に答えてくれた人が誰もいなかっただけでなく、理念と現実とのギャップというものをさまざまと示された感がある。

次に、これら「集い」の意識・意義や不満について自由記述の中から探ってみることにする。

「この子にも同窓会が出来るという事は、名大グループに3年間在籍したという思い出として、実は何もしてやれなかったのではないかという母親の気持ちと、やっぱり出来るだけのことはやったのではないかというなつかしい思いとにかくられます」(母親E)

「どうしても知り合い同志のグループに分かれてしまつて、新しい人の出会いという意味ではもう少し考えて

ほしかった」父親B)

「運動会、同窓会の時でもそうですが、同期のお友だち、お母さん、先生、学生さんしかりませんので、ついお会いしても、その方たちとしか話さないような結果になってしましました。子どもの年令も同じということもあります」(母親F)

「うちの子を亡くしてちょうど1年めでした。毎日思いつめて泣いていたときの同窓会でしたので、その間だけでも私に笑顔が出たように思います」(母親G)

「親はゆっくり話がしたいけれど、子どもが何もすることがないのでは飽きてしまうので、今回のような企画(運動会)はすばらしいと思う。…………親子ともに楽しめた」(母親H)

「やはりお母さんの年令や子どもたちの年令も違うので話が合わないし、また、しにくかった。同じ時期の人たちとの同窓会の方がいいと思うし、先生方も知らない人の方が多いので何となくぎこちなかった。それで次の時どんなことをしても出席しようという気持ちにまではなれなかった」(母親I)

また、同窓会の企画に関してもさまざまな意見が寄せられている。そのすべてを紹介することはできないが、療育対象児であった息子を亡くしたある父親から、このような申し出があったことをここで記しておきたい。

「『子どもを預けて親の方がのんびりできるもの』(質問紙の選択肢のひとつ)を希望される方があれば、子どもさんを預かってあげてもいいよ」この言葉こそ、私たちの意図したMRグループの連帯を求めての理念に、みごとに呼応したものといえよう。

III 療育者からの結果

療育者を2度の「集い」への出欠状況から5群に分けた。(表12)以下の表でのA~E群は、これに対応している。

1 家族にとっての「集い」の意義

まず、私たちの療育グループ経験者からみる家族に

とっての「集い」の意義については、表13のように回答がまとめられた。(回答は自由記述であるため重複回答となっている。)

「同時期に療育に参加していた子どもたち、家族の過ごした年月を懐かしんだり、近況を報告したり、まさに『同窓会』『運動会』の意味が大きい」というように、交流の場となることの意味を多くが指摘している。親同士の間でもそうであったが、家族と療育者の間でも、療育グループを巣立った後は、なかなか交流の機会をもてないことを背景にしているのであろう。

この「集い」の場は、また

同じように障害をもった子どもたちと、その家族と仲間がいることが実感できる。(A群)

昔の仲間の元気な姿を見る。(A群)

こうしたことで、親にとって励みになると考えられるし、障害ゆえに、外出の機会の少ない親子にとって、よい体験の場となることが指摘された。障害児の兄弟が、

いろいろな子どもたちが、がんばっていることを見ることから、学ばされるだけでなく、同じ立場の子どもとともに知り合える。(A群)

といった機会となることも、「集い」の積極的な意味であろう。2回の「集い」がそれぞれ家族にどのような意味をもったかについては、表14、表15にそれぞれ分けて示したが、おおむね、表13の結果と一致している。

これは、今回の調査が、運動会後に行なわれたという手

表12 回答者のグルーピング

	56年度同窓会	58年度同窓会	N
A	出席	出席	10
B	出席	欠席	10
C	欠席	出席	5
D	欠席	欠席	8
E	—	出席	7 (57・58年度の現役療育者)
		計	40

表13 家族にとっての「集い」の意味(同窓会・運動会あわせて)

	A	B	C	D	E	計
① 再会・交流を深める場	5	5	1	5	6	22
② 子どもの成長を振り返り、今後へ方向づけ、動機づける	2	1				3
③ 家族の励み・活力を高める	3	6		2	2	13
④ 親子の体験の場	1	3	2	3	3	12
⑤ 障害児問題の情報交換		1				1
⑥ 体験の再確認		1			1	2
⑦ その他		1		1		2

表14 家族にとっての「集い」の意味（同窓会）

	A	B	計
① 他の親子の状況を知り、それが励みとなる	8	3	11
② 仲間との再会	3	2	5
③ よい体験の場	5		5
④ 情報交換		1	1
⑤ その他の	3	4	7

表15 家族にとっての「集い」の意味（運動会）

	A	C	E	計
① 他の親子の状況を知り、それが励みとなる	1	3	3	7
② 仲間との再会	5	2		7
③ よい体験の場	2		3	5
④ グループ仲間関係の展開のきっかけ	2	1		3
⑤ 父親参加の場	1			1
⑥ その他の	4	1	1	6

続き上の問題でもあろうが、どちらの「集い」も、再会の場であり、体験の場であり、励みとなる機会であったと、とらえられている。

具体的には、

初めての、同窓会ということで、とても楽しみにしておられた家族や子どもたちの姿をよく拝見することができました。お母さん同志、まるで、女学生に戻ったようになつかしがって、はしゃいでおられる風景もみられ、それほどまでに、このグループが家族にとっても、大きな影をおとしているのだということを感じさせられました。（A群）

と、同窓会参加者から感想が寄せられている。また、運動会への参加者からは、

ひとつの大きな契機になる……（中略）……父親及び近所の人たちが参加してくれることのうれしさ……（A群）

という、療育グループの方向を確認する回答があったが、現役の療育者から成るE群からは、同趣旨の回答は、まだ、得られていない。

新しい「輪」への拡がりという点で、運動会の評価は表16にみられるように、A群の人たちに肯定的にうけとめられ、C・E群では評価が低い。

運動会という動きのある企画だったためか、自然につながりが強まったように思います。よその家の子を預かって、その親を出場させた、お母さん、お父さんも多かったようですし、同窓会に比べて、ずっと新しい輪が拡が

表16 「輪」への拡がりの評価

	A	C	E	計
① 頬合わせ程度、広がりはない	2	3	1	6
② 分らない		2	2	4
③ 「輪」を感じた			1	1
④ 広げるきっかけとなる	3			3
⑤ 広がった	1			1
無 答	4		3	7

ったと思います。（A群）

その場だけの集まりになったように感じる。（C群）

顔合わせには、なったと思う。（E群）

……時間的なことや、場所が広すぎたこともあり、新しい輪への拡がりはむずかしい。しかし、こういう企画を節目にしていくのは大切。（A群）

この回答状況からみて、A群では継続して参加するという意味で、動機づけも高く、2回の「集い」の変化を知っているという点で、C・E群と差がでているものと思われる。また、家族と療育者全体の「輪」、家族間の「輪」、療育者集団の「輪」のどれを考えるかで、回答がちがってくるかもしれない。それだけに、療育グループ参加年度の違う者同士の、縦のつながり、そして、グループ参加者全体のまとまりとしての「輪」をひろげてゆく試みが、今回、十分には達せられたとは評価されていないことを、十分認識して、今後の活動を考えてゆく必要があるといえよう。

2 家族にとっての「集い」の形態

「集い」の形態については、さまざまな意見が寄せられたが、その内容面については、

思わず行ってしまいたくなるような、楽しい行事。（D群）

今、困っている問題とか話し合う。（C群）

母子分離して、それぞれに調査、観察をする。青年期に入った障害児をかかえる問題をとりあげて話し合う。（A群）

といったように、お祭り的行事と話し合いを、どう連続させるかが、課題である。

具体的に、2度の「集い」に参加しての感想・意見については、大方に、満足のゆくものであったようと思われる。再会でき、子どもの成長を喜び、会を楽しめたという内容であったが、注文としては、話し合う時間を、今少し多くとること、参加者が多く、初対面の人がほとんどであるので、自己紹介を行なうことなどが求められた。ある母親が、

障害児療育における同窓の連帯をめぐって

フォークダンスでも知ってる人とばかり何度も踊っていた。(A群)

といっておられたとか、

顔みしり同志のグループに別れてしまい、新しいつながりができにくい。(A群)

とかいう指摘は、それなりに、歴史の長くなった療育グループであり、2回の集まりという中で、横のむすびつきで、再会を楽しむことが主になってしまふ(それが、同窓会の意義でもあるのだが)が、縦へのひろがりを、次に考えてゆく時、「集い」に工夫ある企画が求められることをいっているように思われる。

3 連帯の「輪」のひろがり

この点に関し、私どもは、療育グループ参加者を対象に、こうした縦のひろがりをめざしてのミニコミ紙「わ」を製作、配布することとし、第1号を、本調査用紙配布と同時に郵送した。その反響として(表17、表18)、多くが、積極的にアイディアを寄せたりなどして、好意的なものがみられた。

M R G が身近なもので、いつづけられる。(D群)

同窓会は、物理的な制約もあり、なかなか大変であるがミニコミ紙には気軽に参加でき……。(B群)

つながりを定期的に、一年に一度、数年に一度という集りで確認するだけでなく、日頃からという点で期待しています。(A群)

私どもも、これらの回答にもとづいて、目的を設定し、数多く発刊していこうとしている。1984年6月には、第2号を発行したが、「集い」の企画でも同じように、親や卒業した療育メンバー全体で、記事内容をつくっています。

表17 「わ」への提案

① 親子・療育者の近況報告	12
② 投稿者をふやす	5
③ 障害児問題の情報交換	5
④ M R G の現在の活動報告	3
⑤ 足をつかってインタビューして回る	2
⑥ 紙上Q & A	1

表18 「わ」への期待・注文など

① 続けてほしい	5
② 期待している、たのしいものに	4
③ つながりの確認、わを作るきっかけ	4
④ 構成・文章に工夫を	1
⑤ 目的、何を伝えたいか分からぬ	2

表19 同窓会を契機としての変化

	A	B	計
① 家族との交流	2		2
② M R G へのコミットが高まつた	1		1
③ 新しい職場に就いた	1		1
④ 考えているが、行動にでていない	1		1
⑤ 療育者との交流が復活		1	1
⑥ O B と知り合う機会だった		1	1
⑦ 分からない・なし・無答	5	8	13

表20 運動会を契機としての変化

	A	C	E	計
① 同窓会でのつながりを続ける	1			1
② 必要なときは障害児問題にとりくむ	1			1
③ 年に1回交流の機会をもちたい	1			1
④ 子どもに障害児と接する機会を与える		1		1
⑤ 何か少し変化したかんじがする		1		1
⑥ 障害児関係の仕事に就くことを励ました			1	1
⑦ その他・なし・無答	7	2	6	15

くところまでは至っていない。

とりあえずは、現役メンバーが中心となり、徐々に、投稿者をふやし、紙上を療育メンバーの交流ということを主眼に、誰もが自由に使える方向で進めていきたいと考えている。

さて、「集い」の企画をきっかけに、療育経験者が、なんらかの行動をすすめるに至ったかどうかは、企画の評価ともなり、療育グループの「輪」の拡がりともなると考えられる。(表19、表20)しかし、実際に、具体的な行動を起こした療育者の比率は、それほど高くはない。

「輪」の拡がりとしては、

同窓会での再会を契機として、Yさん宅へ、たびたび、お邪魔している。(A群)

次の機会には、ぜひうちの子もつれて、肌で「いろんな人間がいる」ことを、体験させてやりたい。(C群)

といった回答があったことは、それでも少しずつ「輪」のひろがりをもたらすきっかけとなっているといえよう。

4 療育者にとっての「集い」の意義

これまで、療育グループ全体について、特に家族にとっての意義、形態という観点から療育経験者の回答をみ

資料

表21 療育者にとっての「集い」の意義

	A	B	C	D	E	計
① 交流・再会の場	4	5		2		11
② 子どもの成長・親の動きの確認の場	4	1				5
③ 励まされ、刺激をうけ学ぶ場	4	4	3	1	3	15
④ 自身をふりかえる	2	1		1	1	5
⑤ Follow up 研究の場	2					2
⑥ 関わり体験の場	1					1
⑦ 先輩療育者から学ぶ場	1					1
⑧ その他の		1	1	3	3	8
⑨ 印象がない・分からぬ		1	0	2	1	4

てきたが、次には療育経験者自身についての、「集い」の体験内容を以下みていくことにする。

まず、同窓の「集い」を企画することが、療育者にとってどういう意味をもつだろうか。(表21)

ここでは、家族について考えられると同様に、交流し再会の場であることがあげられる。そして、療育者としての発想がある。さらに、また、「集い」の意義は、家族に対してだけでなく、療育者個人にとっても、ひとつの体験学習であるとも考えられている。

かっての担当児の成長、その両親のがんばりをふたたび、みることができ、こうして一時でもまた、かかわりをもてることは、私自身にとっては、ひとつの勉強、よい体験の場となる。また、他の療育者のみなさんの、子どもや親に対するかかわり方をみることも勉強になっている。(A群)

職業柄、どうも権威主義的になってしまっている。そんな自分をリフレッシュしてくれる体験だった。(C群)

指導員として、毎日、障害者とかかわっているが、つい慣れてきて、大切な気持ちを忘れてしまいそうになる。再会するとまた新鮮な心を思いだせる。(B群)

表22 「集い」への参加動機

	同窓会		運動会			計
	A	B	A	C	E	
① 家族・子ども・療育者の再会 出会い	12	11	8	5	2	38
② 主宰者として	4	1	1		6	12
③ 自身の活力源として	1			2	2	5
④ 自身の成長の確認	1	1	1			3
⑤ 年長児への関心	1					1
⑥ その他の			2	1	1	4

表23 療育者にとって「集い」に参加したことの意味

	同窓会		運動会			計
	A	B	A	C	E	
① 再会・新しい仲間ができた	2	3	7	1		13
② 自身の成長の検討・刺激となつた	5	7	6	4	3	25
③ 障害児療育のあり方を考えた	3	1			1	5
④ M R G の歩みが分った	2				2	4
⑤ 家感がない・印象がない・分からぬ	1	2				3
⑥ その他の			1		1	2

障害児療育における同窓の連帯をめぐって

ただE群では、グループに関与したばかりで同窓会といつてもピンとこないという声もあり、時期的に卒論、就職活動に追われている最中であったこともあり、その準備に忙しく交流・再会という意義はそれほど強く感じられていない。

このような「集い」への意識は、「集い」への参加動機、そして、実際に参加しての体験内容とつらなるものとなっている。(表22、表23)

参加動機では、再会したいという動機が、もっとも多くみられているが、E群では主宰者としての意識が強い。前述の意識に通ずるものといえる。

なつかしさでいっぱい。グループを卒業してから7~8年たっていましたので、ただ、ただ、みんなに会いたいという気もちからやってきました。(A群)

当時の子どもや親と会って、現在の子どもと親を改めて知りたい思い。療育者仲間とも旧交を温めたい。これらを通して、現在、そして、これから私の生きることをみつめる手がかりとしたい。(B群)

名大MRG関係者のみに限定しない、より開かれたグループとして拡げようとする今回の方針に、大いに感動し知人をも連れて参加しようと思いました。(A群)

前回の同窓会で出会った子どもたちの成長をみるのも楽しみでした。(A群)

現スタッフでもあり、出席するのが当然だったけど、かつてのメンバーがどんなふうに過ごしているかということに关心があったし、自分にとって何らかの刺激を与えてもらえるのではないか。(E群)

さらにまた、「集い」に参加した体験内容としては、障害児、その家族、そして療育者仲間とふれることを通して、療育者自身も力づけられ、学ばされたという意味内容が2回の「集い」に共通して多くみられた。

具体的には、

障害をもった子どもたちと、ともに生きているお母さんや(家族)の姿を見ることができて本当によかった。

障害“児”から“者”になっていく上での悩みを分かち合えればという気持ちになっていました。新しい職場へ就職する一つのキッカケになったと思います。(A群)
その頃の自分の臨床に対する態度を生き生きと思ひだすことができた。10年経過する中で忘れていたことを、よい意味でも悪い意味でも感じることができた。(B群)
仕事と家庭と、日頃ついつい狭い世界に閉じこもってしまって、視野が狭くなってしまいます。障害ある子どもとその親と、そのひたむきな歩みに、ずいぶん刺激されました。(C群)
先輩たちがこんなに明るく生きているという姿を前に、非常にうれしく、また、はげみとなりました。(E群)

という回答が寄せられている。

これからして、「集い」の企画が、子どもや家族に援助的であるだけでなく、療育者にも、子どもやその家族、療育者団体と接することにより、改めて、意味をもたらすという相互作用的なかわり合いの場となっていると考えられる。

5 今後への参加意欲

2度の「集い」を経て、今度の「集い」への参加意欲(表24)は、企画に否定的な回答を寄せる者はなかった。ここで、参加できないというのは、遠隔地であるなど現実的問題で参加できないという内容であった。A・E群で積極的な参加意欲を答える者が多いのは、継続して「集い」に参加してきたという療育グループに寄せる思い、また主宰者としての達成感からのものであろう。

回答を寄せた者の中に、望ましい答えを寄せるといった要因があるかもしれないが、1、2の回答で、既に療育グループを離れて久しいことや、自身の臨床観から、「集い」に対し、今若干の距離を置いていると感じられるほかは、「集い」に対し、きわめて積極的な回答であったとみることができる。

表24 今後の「集い」への参加意欲

	A	B	C	D	E	計
① 企画・立案より参加する	2				3	5
② 準備から参加する	2		1		1	4
③ 当日は参加する	6	5	3	3	2	19
④ 少しだけ参加する		3	1	1	1	6
⑤ 参加したいが、できない		2		2		4
⑥ 参加する気になれない						
⑦ 企画次第で参加するかもしれない						
⑧ 積極的に反対						
⑨ その他					2	2

以上より、療育者の側でとらえる同窓の「集い」は、子どもにとっては体験の場であり、父親にとってもその数は少ないが療育活動に直接参加する機会であり、家族全体にとっては再会を通してそれが喜びの場であり、心理的な支えとなるものと考えられる。

今、別のところで療育グループを続けておりますが、残念ながら同窓会は一度もやっておりません。親御さん方からは、他の方はどうにしてらっしゃるのだろうかという声を聞きます。家族（親）にとっての意味を大きく考えます。（A群）

療育者にとってはまた、再会を楽しむ場であると同時に、自身の生き方を問い合わせ直す機会ともなっていることは、これまででも明らかである。

障害児とのとりくみから離れている者にとっては、

主婦業に専念している今の私にとって、ただ何となく過ごしている自分の毎日の生活態度や生き方を考えさせられた一日でした。これを機会に自分の世界をまた少しづつ拓げていきたいと思っています。（A群）

との体験となり、また現在もひきつづき取りくみづけている者にとっては、

幼児期の子どもたちばかりに目を向けていたのですが、小さかった子が大きく育つという当たり前のことを、同窓会で実感してもっと自然に考えられるようになった。（A群）

といった、日々の実践で忘れがちな視点を確認する結果にもなったようである。

私たちのこの療育グループ活動は、子ども、家族、療育者の三者がかかわりを深める中で体験し、成長し、展開していく関係として、療育者にはとらえられており、今後も同窓の「集い」を通じて、横のつながり、縦のつながり、全体としての「輪」の形成と、その拡がりをめざそうとする、私たちの試みの基盤が存在することが、こうしたアンケートにみられる療育者の意識から確認されたといつてよい。

IV ボランティアからの結果

「集い」へのボランティア参加者は、学部生を中心に、学外者を含み（表25）15名の協力が得られた。そのうちアンケートへの回収率は、86.7%（13/15）であった。

表25 ボランティアの立場

	N
① 学 生	8
② 関係者の友人・知人	2
③ そ の 他	3
計	13

彼らの多くは、愛知県コロニーでの療育体験実習を経験しており、他には、心理治療活動や、ボランティア活動で障害児と接する経験のあるものがほとんどであった。

（表26）

ボランティアになる動機としては、誘われたことをきっかけにしている人が中心となっている。（表27）事実私どもとしては、運動会開催を契機として、療育グループの活動を外に拓げようと、学部生に、個人的に働きかけも行ってきた。

彼らが、「集い」に参加するにあたって、関心をもつたこと（表28）では、学部生の中では、来年度よりMRグループへの参加を希望し、その見学も兼ねてという人が多く、また学部外からは、障害児問題への関心、自身のボランティア活動への参考として参加してきていた人が多かった。

表26 障害児に接した経験

	N
① あ る	11
② な い	1
③ 無 答	1
計	13

表27 ボランティアとしての参加動機

	N
① 関心があり自主的に	2
② 誘われて関心がわいた	5
③ 身近な人に誘われた	3
④ 強制的に	1
⑤ そ の 他	2
計	13

表28 参加するにあたっての関心

	N
① 障害児との接触	2
② グループの活動	8
③ 障害児問題への参考	2
④ 社会経験として	2
⑤ 特にない	1
⑥ そ の 他	2

（重複回答）

障害児療育における同窓の連帯をめぐって

障害児の家族ぐるみの活動のあり方については、自分の行なっている活動との関係もあって興味をもっていました。きちんと専門家の方ばかりでやっている活動をみたいと思いました。障害児と接することは、正直いって非常に不安なこと……だからといって、自分たちが無視して通りすぎてしまうことは、無責任……自身をみつめていくにも必要……MRグループというのがあって、そこに参加できるチャンスを得るために、まず、どんな様子であるか知りたいと思った。

彼らが、参加して、印象に残ったこととしては、重度の子どもをまのあたりにしたこと、来場するなり、落涙した母親の姿、母親の生き生きとしているようす、それを支えているMRグループの存在感、参加する人数の多さ、準備、ゲームの楽しさ、そして何よりもこの子どもたちと接して、健常児と本質的に差がないという感じがしたこと等が報告されている。

また、この参加経験が、障害児観、その家族への見方に影響を及ぼしたこととしては、子ども、親ののびのびした動きにふれて、彼らを特別視してはいけないこと、など、体験としてしか感じえない実感としてもたたのではないだろうかと考える。

しかし、一方では、

重度の子どもたちにとって、この運動会の意義は何であったか、自分には、今ひとつわかりませんでした。

という、ナイーブな疑問も寄せられているだけに、これに答えていくのが、また、重度化する対象児をかかえる最近のMRグループの課題でもあるといえる。

今回の参加体験を、全体として、内省してもらうと(表29)、新年度から療育スタッフになろうとする人には、障害児へのかかわり意欲を強め、その他の人には体験学習として意味があったように思われる。

家族のかたたちの明るさは、何年もかかってやっと生まれたものかもしれません。そしてまた、このような障害児をもつ家族の集まりなどが、その家族のかたたちを支える大きな役割をしているように思います。

と、家族全体に対して援助の手をすすめようとしている私どもの試みを十分感得してもらえたと感じられた面も

表29 参加体験の意味

	N
① 自身の人生を考え直すきっかけになった	1
② 障害児と取り組む意欲の向上	4
③ 勉強になった	10
④ 感動した	1
⑤ その他	1

(重複回答)

表30 今後のMR企画への参加意欲

	N
① ぜひ参加して、手伝いたい	4
② 都合がつけば、参加して、手伝う	8
③ 誘われれば参加する	1
計	13

ある。

さて、参加後のMRグループへの関心の変化については、日常活動に興味をもち、また、直接参加してみたいという内容のものが寄せられた。(表30)しかし、ボランティアの立場としては、やや、感動が十分でないとか、既知同志の集団に初対面の者が入りにくいなどという所感も出されていた点は、次回から配慮しなければならないところである。

このような体験をした後の、さらなる今後への参加意欲は、しかし、すべて積極的、前向きの回答ばかりであった。

実際に、参加体験としては、お手伝いのレベルから、自らの障害児観を検討していく作業のひとつのステップとして位置づけられるものまで幅広いが、大方、自分にとって満足できた体験のようで、障害児、家族と歩む活動を拡げようとする私どもの意図は達せられたと見てよいのではないかと思われる。

長い歴史をもつ、このMRグループの活動に、実際に参加する体験は、あまり数多くあるわけではないし、個人的に参加するには、なお相当の努力が必要とされるであろう。

「みんな一生懸命生きているな」という思い。今でも、障害児や、その親に対し、どう接したらいいかという不安はあるけれど、わずかながら気持ちが前進したような気がする。

いつかは、何の偏見もなく子どもを受けとめられるようになりたいと思う。

このように動機づけられるような機会をつくっていくことが、私どもの活動の「輪」を拡げていくひとつの道であると考えられる。

文 献

- 後藤秀爾・村上英治ら 1977 発達障害児の療育合宿
——日常の療育活動との関連の中で——名古屋大学
教育学部紀要(教育心理学科), 24, 179—192.
後藤秀爾・村上英治ら 1981 発達障害児の集団療育
(その4) ——10年の歩みをふりかえっての調査か

資料

ら——名古屋大学教育学部紀要（教育心理学科），
28, 209—226.
後藤秀爾・村上英治ら 重度・重複障害幼児の集団療育

(5) — 父親の療育参加をめぐって——名古屋大
学教育学部紀要（教育心理学科），30, 121—144.
(1984年8月23日受稿)

付 錄

みなさんお元気ですか。

先日（11月3日）のMRグループ大運動会に参加して下さった方、足腰の痛みも、もう癒えたころと思います。大変楽しい集いになって、実行委員一同、やってよかったです。

都合で参加できなかった方からも、多くの近況報告いただき、ありがとうございました。『MRグループのわ』と称するミニコミ紙を作成し、運動会特集を組みましたので、雰囲気の一部なりとも、共有していただければ、うれしく思います。

この『輪』のつながりを確かめつつ、拡げていく努力を、今後も、続けていきたいと思いますので、主体的、積極的な協力——といわずに、参加を、呼びかけたいと思います。仲間うちの情報提供と、交流のきっかけ作りの場として、このミニコミ紙を育てて行きたいと思います。同窓会を節目とすれば、その間をつなぐものが、このミニコミ紙——と、いうことになればいいと思っています。

と、ということで、今までのやり方を検討し、今後の方向について、一緒に考えていただけたらと思い、今回の運動会と、その前（S.56年に熱田親の会会館で行なったもの）の同窓会の成果と、それをめぐっての御意見など、書いていただきたいと思います。

その時、出席された方も、されなかつた方も、このグループとつながりのある人達の意見を、広くうかがって、よりよいグループ作りをめざしたいと思います。ひとりの問題を、自分の問題として、みんなで考え、取り組めるようなグループにしていきたいと思っています。

なにとぞ、趣旨をお汲み取りの上、率直な御意見を、お寄せ下さるようお願いします。

今後、子ども達が大きくなってくれば、問題は益々多くなっていくことでしょう。それらに前向きに取り組むためには、みんなの『輪』が必要だと思います。ひとりひとりが、今の自分に出来ることを、さがしていくことが大事だと思います。すぐには、何ともならなくとも、みんなで考えていくような場を、どこかに見つけたいと思うのです。質問内容から、はづれても構いませんので、日頃のお考えを、自由な気持ちで、書いていただければ結構です。

父親用

- これまでの同窓会の出席状態＜あてはまるものを○で囲む＞
 - 1) S.56年の10月に、手をつなぐ親の会会館（熱田）で行なった同窓会と、この11月に行なった同窓会（運動会）に、
 - イ. 2回とも出席した
 - ロ. 熱田の時だけ出席した
 - ハ. 運動会の時だけ出席した
 - ニ. あいさつ程度に顔を出した。あるいは送り迎えだけした
 - ホ. 2回とも欠席した
- 2) 出欠はともかくとして、こうした集まりに出席することについて、
 - イ. 父親も、積極的に出席すべきだと思っている
 - ロ. 父親も出席した方が良いだろうな位に思っている
 - ハ. こういうことは好きなので、出席したいと思っている
- ニ. 出席した方がいいのかも知れないが、都合で、母親に任せてある
- ホ. 子どものことに、父親は、手出しそべきではない
- ヘ. 子どものこととはいえ、気ははずかしい
- ト. そういったことには、関心がない
- チ. その他（ ）

＜①～④までの質問には、同窓会に出席したことがある人もない人も、全員が答えて下さい。＞

- ① こういう同窓会のような集まりは、意味があると思いますか。＜あてはまるものをいくつでも○で囲んで下さい。＞
- イ. 子どものために、よいことと思う
 - ロ. 母親のために、よいことと思う
 - ハ. きょうだいのために、よいことと思う
 - ニ. 父親のために、よいことと思う
 - ホ. 家族のまとまりのために、よいことと思う
 - ヘ. 何の意味もないように思う
 - ト. 判らない。何ともいえない
 - チ. その他（ ）
- ② 昔の仲間に会って、話をしたり、一緒に楽しんだりする機会を、もつことについて、どう思いますか。
- イ. 大変必要なことと思う
 - ロ. できればあった方がよい

資料

ハ. あっても迷惑には思わない

ニ. まったく必要を感じない

ホ. その他()

③ MRグループでのつながりを通して、新しい仲間と
知りあいになることについて、どう思いますか。

イ. 大変大事なことと思うので、考えている

ロ. そういうことも、多少、前向きに考えた方がよい
と思っている

ハ. 特に必要とは思わないが、そういうことがあって
もよい

ニ. 何となく抵抗を感じる

ホ. 必要を感じない

ヘ. その他()

④ 今後、同窓会を開くとしたら、どのような形で、開
くのがよいと思いますか。<重複しても構いません>

イ. 数年に1回でも、今までのよう、みんなの集ま
るようなものを

ロ. 1年に1回は、みんなで集まれるようなものを

ハ. 同じ時期の仲間だけで、時々開くのがよい

ニ. 同窓会よりも、必要な時、気軽に相談できるよう
な態勢を作つておいて欲しい

ホ. その他()

※これに関して、何か思いつくことがあつたら、書
いて下さい。

〔 〕

⑤ おとうさんや、おかあさんたちの方で、同窓会のよ
うな集まりを、企画する動きや、お考えがありました
ら、教えて下さい。

イ. 自分のまわりに、そういう動きのあることは、知
らない

ロ. そういう雰囲気が、あるにはあるが、盛り上がり
ない

ハ. そういう雰囲気も強いが、音頭取りがいなくて実
現しない

ニ. あらたまって集らなくても、友達づきあいをして
いるから、必要性はうすい

ホ. 今の学校等でのつきあいが多く、昔の仲間とのつ
きあいにまで、手がまわらない

ヘ. 今も、時々、同窓会のようなことをしている
ト. その他()

⑥ 現状を考えて、私どもの方で、家族そろって参加し
てもらえるような企画を作ることについては、<適当
に組み合わせて選んで下さい。>

イ. 子どもの発達を刺激するので必要

ロ. 子どもにとって無駄と思う

ハ. 母親の刺激になるので必要

ニ. 母親にとっては、あってもなくてもよい

ホ. 父親の刺激になるので必要

ヘ. 何をしても、父親には、関係ないので無駄

ト. きょうだいが楽しみにしているので必要

チ. きょうだいは、無関心なので、関係ない

リ. その他()

⑦ 今度、同窓会があったら、あなたは出席しますか。

イ. 何をおいても出席したいという意思がある

ロ. できるだけ都合をつけて、出席したいという意欲
がある

ハ. 都合がつけば、出席したいという気持ちがある

ニ. 何も用がなければ、特に断わる理由はない

ホ. 特に必要がなければ、出席しようという気にはな
らない

ヘ. あいさつ程度に、顔を出したい

ト. {妻が、うるさく言えば、出席せざるを得ないだろう
夫が、行った方がよいと言えば、出席せざるを得
ないだろう

チ. 子どもや、きょうだいが、行きたがれば、出席す
ることになる

リ. 仲間に誘われれば、義理を果たすために出席する
ヌ. 何となく抵抗を感じるので、おそらく出席しない
ル. はずかしいので、出席したくない

ヲ. 企画が面白ければ、出席する気になるかも知れな
い

ワ. 必要がないので、出席しない

カ. その他()

⑧ 同窓会の企画としては、どんなものがよいと思いま
すか。

イ. 普通の茶話会のようなもの

ロ. お祭り騒ぎの親子とも楽しめるもの

ハ. 子どもをあずけて、親の方がのんびりできるもの

ニ. お酒をのんで、語り合うようなもの

ホ. 子どもの体験の拡がりになるようなもの

ヘ. その他()

※具体的なアイデアがあれば、おきかせ下さい。

〔 〕

⑨ 今回は、運動会の特集にしましたが、MRグループ
のミニコミ紙を、作ることについて、どう思いますか。

イ. 編集に、参画したい

ロ. 積極的に利用して、盛りたてていきたい

ハ. 面白ううなので、毎回送って欲しい

ニ. あっても、邪魔にはならない

ホ. あまり必要を感じない

障害児療育における同窓の連帯をめぐって

- へ. 経費の無駄使いなので、ない方がよい
ト. その他()
- ⑩ このミニコミ紙を、どのようなものにしていったらよいと思いますか。
- イ. 仲間同志の情報交換の場
ロ. 言いたいことを言って、発散する場
ハ. 昔の仲間との連絡、つながりの確認の場
ニ. MRグループの活動報告
ホ. 新しい仲間との意見交換の場
ヘ. 情報誌のように、交流のきっかけ作りの場
ト. その他()
- ⑪ ミニコミ紙以外にも、考えて欲しい企画等、あったら、教えて下さい。
- []
- <⑫～⑭までの質問は、熱田の時の同窓会に参加した人が、答えて下さい。>
- ⑫ 熱田で行なった同窓会に参加したのは、どういう気持ちからでしたか。<あてはまるものをいくつでも○で囲んで下さい。>
- イ. 昔の仲間との再会を楽しみに
ロ. 子どもの発達を、共に喜んでもらいたいという気持ちから
ハ. 悩みごとがあって、相談したかった
ニ. 子どもにとって、刺激になると思って
ホ. 親の気持ちの張りができるから
ヘ. 家族で、外出する機会になるから
ト. 先輩や後輩に、どういう人がいるかという興味から
チ. 障害児のことを判ってくれる人と、少しでも多く知りあいたいから
リ. 以前、お世話になったことへのあいさつ
ヌ. 企画の内容が、面白そうだから
ル. 人（家族）に誘われて
ヲ. お祭り騒ぎは、何でも好きだから
ワ. その他<何でも、思いついたまま、書いて下さい。>
- []
- ⑬ その同窓会に参加して、よかったです、どういうものでしたか。
- イ. 子ども自身にとって、刺激になった
ロ. きょうだいが楽しめて、障害児きょうだいへの認識が、変わった
ハ. おかあさんの精神安定、安心のためによかったです
ニ. おとうさんの自覚をうながすためによかったです
ホ. 家族のまとまりのためによかったです
- へ. 昔の仲間と旧交があたためられた
ト. 判り合える仲間と、新しく知りあえた
チ. よく判らないが、とにかく面白かったのでよかったです
リ. その他()
- ※上で選んだ答について、少し具体的に感想を、きかせて下さい。
- []
- ⑭ 同窓会に参加して、あてはまなかった点、心残りだった点、こうした方がよいと思った点には、どういうものがありましたか。
- イ. 知らない人が多くて、気おくれした
ロ. ゆっくり話が、できなかった
ハ. 相談したいことが、相談できなかった
ニ. 楽しんだだけで、具体的な成果が、得られなかっただ
ホ. 会いたかった人と、会えなかった
ヘ. 参加することをめぐって、家族で、いさかいが起きた
ト. 知らない人と新しく話をすることが、できなかっただ
チ. やっていることの趣味が違って、楽しめない部分があった
リ. きょうだいが、楽しそうでなかった
ヌ. 子ども自身に、楽しめるものが、少なかった
ル. その他()
- ※上で選んだ答について、少し具体的に感想を、きかせて下さい。
- []
- ⑮ 同窓会をきっかけにして、変わったと思えることが、何かありましたか。
- イ. 昔の仲間とのつきあいが、再開できた
(誰と?)
ロ. 新しく、つきあう仲間ができた
(誰と?)
ハ. きょうだいの態度が変わった
(どのように?)
ニ. おかあさんの態度や気持ちが変化した
(どのように?)
ホ. おとうさんの態度や気持ちが変化した
(どのように?)
ヘ. 家族全体の雰囲気が変わってきた
(どのように?)
ト. 自分達で、何かを、しなくては、という気になっ

た

(例えは、どんなことを?)

チ. 名大へ顔を出しやすくなつた

リ. その他()

※上で選んだ答を、もう少し、説明して下さい。

〔 〕

⑯ 総体的にいって、この同窓会は、

イ. 大変よかつたと思う

ロ. まあまあよかつたと思う

ハ. 可もなく、不可もなく

ニ. もう少し、何とか、考えてもらいたかった

ホ. ひどいもんだった。行かなければよかつた

ヘ. その他()

⑰ この熱田の同窓会についての全体的感想を、自由に、
書いて下さい。

〔 〕

<⑯～⑰までの質問は、今度の運動会に参加した人が、
答えて下さい。>⑯ 今度の運動会に参加したのは、どういう気持ちから
でしたか。<あてはまるものをいくつでも○で囲んで
下さい。>

イ. 昔の仲間との再会を楽しみに

ロ. 子どもの発達を、共に喜んでもらいたいという気
持ちから

ハ. 悩みごとがあって、相談したかった

ニ. 子どもにとって、刺激になると思って

ホ. 親の気持ちの張りができるから

ヘ. 家族で、外出する機会になるから

ト. 先輩や後輩に、どういう人がいるかという興味か
らチ. 障害児のことを判ってくれる人と、少しでも多く
知りあいたいから

リ. 以前、お世話になったことへのあいさつ

ヌ. 企画の内容が、面白そうだったから

ル. 人(家族)に誘われて

ヲ. お祭り騒ぎは、何でも好きだから

ワ. その他<何でも、思いついたまま、書いて下さい。>

〔 〕

⑰ この運動会に参加して、よかつたと思う点は、どう
いうものでしたか。

イ. 子ども自身にとって、刺激になった

ロ. きょうだいが楽しめて、障害児きょうだいへの認
識が、変わった

ハ. おかあさんの精神安定、安心のためによかつた

ニ. おとうさんの自覚をうながすためによかつた

ホ. 家族のまとまりのためによかつた

ヘ. 昔の仲間と旧交があたためられた

ト. 判り合える仲間と、新しく知りあえた

チ. よく判らないが、とにかく面白かったのでよかつ
た

リ. その他()

※上で選んだ答について、少し具体的に感想を、き
かせて下さい。

〔 〕

⑳ 運動会に参加して、あてはずれだった点、心残りだ
った点、こうした方がよいと思った点には、どうい
うものがありましたか。

イ. 知らない人が多くて、気おくれした

ロ. ゆっくり話が、できなかった

ハ. 相談したいことが、相談できなかつた

ニ. 楽しんだだけで、具体的な成果が、得られなかっ
た

ホ. 会いたかった人と、会えなかつた

ヘ. 参加することをめぐって、家族で、いさかいが起
きたト. 知らない人と新しく話をすることが、できなかっ
たチ. やっていることの趣味が違つて、楽しめない部分
があつた

リ. きょうだいが、楽しそうでなかつた

ヌ. 子ども自身に、楽しめるものが、少なかつた

ル. その他()

※上で選んだ答について、少し具体的に感想を、き
かせて下さい。

〔 〕

㉑ 運動会をきっかけにして、変わったと思えることが、
何か、ありましたか。イ. 昔の仲間とのつきあいが再開できた
(誰と?)ロ. 新しく、つきあう仲間ができた
(誰と?)ハ. きょうだいの態度が変わつた
(どのように?)ニ. おかあさんの態度や気持ちが変化した
(どのように?)ホ. おとうさんの態度や気持ちが変化した
(どのように?)

障害児療育における同窓の連帯をめぐって

- へ. 家族全体の雰囲気が変わってきた
(どのように?)
ト. 自分達で、何かを、しなくては、という気になっ
た
(例えば、どんなことを?)
チ. 名大へ顔を出しやすくなった
リ. その他()
※上で選んだ答を、もう少し、説明して下さい。
〔 〕

㉒ 総体的にいって、この運動会は、

- イ. 大変よかったです
ロ. まあまあよかったです
ハ. 可もなく、不可もなく
ニ. もう少し、何とか、考えてもらいたかった
ホ. ひどいもんだった。行かなければよかったです
ヘ. その他()

㉓ この運動会についての全体的感想を、自由に、書いて下さい。

〔 〕

母親用

- ・ これまでの同窓会の参加状態<あてはまるものを○で囲む>
- 1) S56年の10月に、手をつなぐ親の会会館(熱田)で、行なった同窓会には、
イ. 一家そろって出席した
ロ. きょうだいを連れて、母と子で出席した
ハ. 母と子と、2人で出席した
ニ. 母だけ単独で、あるいは、きょうだいだけ連れて出席した
ホ. 出席したかったが、つごうがつかなかったので欠席した
ヘ. 出席する気になれずに欠席した
ト. その他()
- 2) 今回の同窓会(運動会)には、
イ. 一家そろって出席した
ロ. きょうだいを連れて、母と子で出席した
ハ. 母と子と、2人で出席した
ニ. 母だけ単独で、あるいは、きょうだいだけ連れて出席した
ホ. 出席したかったが、つごうがつかなかったので欠席した
ヘ. 出席する気になれずに欠席した
ト. その他()

- ・ 現在、子どもの問題で、困った時に、相談する場を、持っていますか。
- イ. 児童相談所、専門病院などの専門機関に、定期的に通っているので、そこで相談する
ロ. 障害児の親の会などで、相談できる
ハ. 障害児の親同士の個人的なつきあいの中で、相談しあう
ニ. 家族と話しあう
ホ. 特に決まってないので、その場その場で、考えて
ヘ. 子どもの学校の先生などに相談する
ト. 相談するようなことは、特にない
チ. その他()

以下、父親用と同一の質問内容

療育者用

- ・ これまでの同窓会参加状態
- 1) S56年10月に、手をつなぐ親の会会館(熱田)で行なった同窓会には、
a. 全面的に出席した
b. ほとんど全面的に出席した
c. 少しだけ出席した
d. 出席したかったが、都合がつかなかった
e. 欠席した
- 2) 今回の同窓会(運動会)には、
a. 全面的に出席した
b. ほとんど全面的に出席した
c. 少しだけ出席した
d. 出席したかったが、都合がつかなかった
e. 欠席した

〔①～⑥までの質問には、出席した人も、2回とも欠席した人も、全員の人が答えて下さい。〕

① S56年の同窓会の頃に行なった質問紙調査で、親同士の交流を、気持ちの上では必要と思いながら、実際には、積極的に動けていない親達の現状が、はっきりしてきました。昔の仲間とのつながりを確認し、その後の交流を深めるきっかけとして、同窓会の必要性を考え、熱田の大同窓会を開きました。今回の運動会は、もう少し欲張って、お祭り騒ぎの中から、新しい仲間との出会いの場を作りたいとも考えての企画でした。同窓会を開くことの是非について、どう考えていますか。疑問点を含めて、書いて下さい。

- 1) 子ども達と、その家族にとってどうか。

〔 〕

資料

2) あなた自身にとってはどうか。

[]

② 同窓会の形態については、どう思いますか。(運動会のような趣向を変えることについてなど) 何かアイデアがあれば、あわせて、おきかせ下さい。

[]

③ 同窓会で確認したつながりを、維持し、新しい展開を刺激したいと思って、とりあえず、ミニコミ紙をはじめました。これについては、どのように思いますか。(期待される成果や出来具合など) もっと色々なアイデアがあれば、幅広く、おきかせ下さい。

[]

④ 今後、同窓会等の企画があった時には、参加しようと思いますか。

- a. 企画・立案の段階からでも参加したいし、参加できると思う
- b. 準備等の段階から、参加できると思う
- c. 本番だけは参加したい
- d. 顔を出す程度ならできそう
- e. 参加したい気持ちはあるが、無理だと思う
- f. 参加する気にはなれない
- g. 企画次第で、参加するかもしれない
- h. 積極的に反対
- i. その他()

⑤ 今後のM R グループの活動について、あるいは、同窓会に関して、御意見等がありましたら、何でも、おきかせ下さい。

[]

⑥ 2回の同窓会には、出なかったが、その後に、何らかの反響が伝わってきたという人(昔の子ども達から、連絡があったとか)が、ありましたら、その内容を、おきかせ下さい。

[]

<⑦～⑪までの質問は、熱田の時の同窓会に参加された方は、全員、お答え下さい。>

⑦ 同窓会に出席したのは、主に、どういう気持ちからでしたか。(参加動機)

[]

⑧ 出席した後の感想・意見等(満足できたこと、物足りなかったところ、疑問に思ったところ等)

[]

⑨ 同窓会に出席したことが、あなた自身にとって、どういう意味をもっていたと思われますか。

[]

⑩ この同窓会が、子ども達と、その家族にとって、どういう意味をもっていたと感じましたか。その根拠となるエピソード等がありましたら、あわせて、おきかせ下さい。

[]

⑪ 同窓会を開いたことがきっかけとなって、何か具体的に、あなた自身が始めたことや、誰かが始めたこと、あるいは、交流が復活したり、活発になったりといったエピソードがありましたら、おきかせ下さい。

[]

<⑫～⑯までの質問は、今回の運動会に参加された方は、全員、お答え下さい。>

⑫ 今回の運動会に出席したのは、主に、どういう気持ちからでしたか。(熱田の時にも出席された方は、もし気持ちの上で違ひがあれば、その違いについて、特に、お書き下さい。)

[]

⑬ 運動会を終えての感想・意見等(満足できなかったところ、物足りなかったところ、疑問に思ったところ等)

[]

⑭ 今回の運動会に出席したということが、あなたにとって、どういう意味があったと、思われますか。

[]

⑮ この運動会が、子ども達と、その家族にとって、どういう意味を持っていたと感じましたか。その根拠となるエピソードと、あわせて、おきかせ下さい。

[]

⑯ 昔なじみの顔あわせだけでなく、新しい『輪』への拡がりという点から見て、今回の企画は、どう評価されると思いますか。

[]

⑰ これを機会に、何かやろうと思いついたことは、あ

障害児療育における同窓の連帯をめぐって

りますか。また、それを実行に移していますか。もし
あつたら、ひとつのアイデアとして、おきかせ下さい。
MRグループの活動に、関係なさそうなことでも、構
いません。

[]

ボランティア用

- あなたの立場<あてはまるところに○をつけて下さい。>
 - a. 学生
 - b. 関係者の親類縁者 ()
 - c. 関係者の友人・知人 ()
 - d. その他 ()
- これまで障害児と接した体験 無 有 ()
- 参加の動機
 - a. 興味・関心が強かったので、主体的・自発的に
 - b. 誘われたので、関心が湧いて
 - c. 誘われて、断わる理由がなかったから
 - d. 身近な人が、その気になっていたので、つい乗せられて
 - e. 誰かに、強制されて
 - f. 自分でも、よく判らない
 - g. その他 ()
- ① 運動会に参加するにあたっては、どういう点に、一番関心を、もっておられましたか。
 - a. 障害児と接すること自体
 - b. グループの活動のし方
 - c. 特定の人への関心
 - d. 障害児問題を考える参考として
 - e. 社会体験の拡がりの一部として
 - f. 特に考えない
 - g. その他 ()
- ② そういう関心を持たれたのは、どうしてですか。参加する前の気持ちとあわせて、答えて下さい。

[]
- ③ 運動会に参加してみて、一番印象に残ったエピソードなどがありましたら、書いて下さい。また、それは、どういう点が、印象深かったのでしょうか。

[]

④ 今回、私どものグループで、障害児とその家族に接して、どのような感想をもたれましたか。それは、それまで持っていた障害児に対する認識に、どのような影響を、与えたと思われますか。

[]

⑤ 今回の体験は、あなた自身にとって、どのような体験となったと思いますか。(いくつでも選んで下さい。)

- a. 自分自身の人生を考え直すきっかけ
- b. 障害児問題への関心の深まり
- c. 障害児との取り組みへの意欲の昂まり
- d. いろいろな意味での勉強
- e. ただただ感動
- f. その他 ()

※上の回答について、具体的に説明して下さい。

[]

⑥ 現在、私どものMRグループの活動に対する関心は、どのようなものでしょうか。それは、参加する前と較べて、どのように変わっていますか。

[]

⑦ 今後、こういう参加の機会があれば、また参加したいと思いますか。

- a. 是非とも参加し、お手伝いもしたい
- b. 都合がつけば、参加して、手伝ってもいいなと思う
- c. 都合がつけば、顔を出す位は、してみたい
- d. 誘われれば、拒否する理由はない
- e. できれば遠慮したい
- f. 2度とイヤだ
- g. 今は、特に、何とも思っていない
- h. その他 ()

⑧ その他何でも、参加しての感想・意見などを書いて下さい。ミニコミ誌を読まれて、こういうものを作ることについての意見や感想も、あわせて、書いて下さい。

[]

ABSTRACT

SOLIDARITY BETWEEN PARENTS AND THERAPISTS

— After the group-therapeutic-practice with the mentally handicapped children —

Eiji MURAKAMI, Yuri NAKANISHI, Yasunori MORISAKI, Shuji GOTO,
Reiko KATO and Hirofumi MIZUNO

We have tried group-therapeutic-practice with the mentally handicapped and their parents for these fourteen years. Up to now we have worked with 48 children and their families and 61 therapists. And in order to extend the feeling of togetherness between parents and therapists we have met them twice, once in 1981 after an interval of 11 years and again in 1983, 13 years since the practice began. And after our meetings with the parents a questionnaire was used in an effort to grasp the significance of our coming together again. The questionnaire was sent to all group members: parents, therapists, and volunteers. 71% of the fathers, 80% of the mothers, 68% of the therapists and 87% of the volunteers completed and returned the questionnaire.

The results are as follows;

1. Most of mothers pointed out that they still felt a certain togetherness between us and that atmosphere of the meetings had stimulated the children. Fathers also pointed this out and explained that such events made mothers more at ease.
2. For the therapists the meetings were reported to be significant from two points of view. First, the therapists found pleasure in seeing the growth of the children whom they had once contacted. Second, the meeting was a good chance for therapists so inclined to be introspective.
3. As for the effects on the volunteers who participated in our group for the first time, they felt that the meetings promoted a better understandin of the handicapped and facilitated a growing interest in group-therapeutic-practice with the handicapped.